



衆議院議員
ふくしま のぶゆき
福島 伸享 氏

国鉄分割民営化の再検証を！

国民の移動する権利を確保し、安全を犠牲にした経営を行わせない！

- これまで国会では「国鉄の分割民営化が成功した」と言われていますが、世界中の国で鉄道の“線路の部分”が民間である国は実はほとんどありません。民営化の大国であるアメリカも線路の部分だけでなく、上も公営です。すなわち安全性の担保や駅の公共性を担保するために公が関与するというのは当然なことです。「駅はみんなのものであり、線路の安全は公共のものであることから、国鉄分割民営化そのものの在り方をそろそろ見直すべきではないか」といふ、国会で議論しています。
- 一方で、政治と金の問題があり、自民党には膨大な政治献金がありますが、JR 東日本も企業団体献金をしています。また「JR 東日本ときわ会」という JR 東日本の OB 会があり、事務所にパッと入って選挙運動をそのOBの方がやったりしていることから、一言でいうとズブズブの関係があります。そのために自民党政権では「国鉄分割民営化を根本から検証しよう」というのが広まりません。
- いずれにしても、今のままでは持続可能な（鉄道の）経営は誰がやってもできないと思います。一番大事なことは“国民の移動の権利を確保すること”です。それはどんな弱者であっても移動することができる権利を確保することです。また、何よりも“安全を犠牲にした経営は行わせないこと”が一番の目的です。「今後の鉄道事業の在り方」を国会で骨太の議論をしていきます。

その他の主な内容

Q. 東北新幹線での列車分離もその前の郡山駅でのオーバーランも非常に大きな問題であり、私たち利用者が非常に心配する事案について、JR 東日本はその重大性に立たない。

A. JR 東日本は、怪我人まで生じた大幅滑走について「インシデントに当たらない」と言っていますが、私たちは「インシデントに当たる」認識です。会社では、保線なども含めて検証していますが、分析・原因究明が終わっておらず抜本的な対策は打っていません。つばさ号は新しい車両が導入を始めていますが、この大幅滑走の分析に基づいたデータは取り込まれていないため、私たちは同じような事象が起こる可能性があると考えています。労働組合として引き続き、JR 東日本との議論をしていく必要があると考えています。

Q. 重大インシデントに入らないものが非常に多い。これを当事者である JR 東日本にすべて任せるのではなく、独立した運輸安全委員会などの調査に委ねるべき。

A. 運輸安全委員会などの第三者機関を活用しながら原因究明を進めていくことは、非常に大事だと考えている。私たちが労働組合として団体交渉などで様々な指摘をしますが、聞いていて聞いていないような感じであり、聞く耳を持たず誤りを認めない経営姿勢が表れています。団体交渉そのものも軽視されている状況です。今の JR 東日本は、みどりの窓口や京葉線などの様々な問題で経営のあり方に関わる指摘に対しては非常に敏感に反応している経営陣の体質があります。労働組合としては、そのような機関も活用して真の原因究明をしながら、利用者の安心を実現していくことは非常に大事なことだと考えています。今後、会社に対してそのような提言も行いながら、原因究明にしっかり向き合っていきます。また、ご助言やご指導をいただきながら手を携えて進めて参ります。

心のこもった連帯のメッセージ

メッセージ

私たちは視覚障害者のホーム転落をなくすために発足したホーム転落をなくす会です。会の設立目的は転落そのものをなくすことですが、今回 JR 東日本がワンマン運転をすすめると聞き、交通弱者の安全性や利便性が更に悪化するのではと危惧し、メッセージを送ることにしました。

と申しますのは、例えばホームドアのある駅でも、ホームと列車の間に足を落とし、怪我をしたという事故はあります。このような事故が起こった場合、怪我をした人への対応、応援の要請、電車遅延に伴う連絡、車内アナウンスなどをワンマンである一人の運転士がこなせるのでしょうか。

近年、無人駅が増えたり、みどりの窓口が減ったり、改札から人がいなくなり、インターフォンが設置されたりと人を減らす方向だけに注力されているように感じます。

しかし、そもそも鉄道事業は輸送という接客業であり、その客の中にはしょうがいしゃのような交通弱者や高齢者、外国人もたくさんいます。ホーム上でトラブルが起こることもあり得ます。つまり、輸送の安全性や利便性を考えた時、人にしかできない安全確保やサービスというものがあるはずです。

今一度、駅が無人になることやみどりの窓口を減らすこと、改札に人がいなくなることで、電車をワンマン運転で運転することの問題に目を向けていただき、誰にとっても安心して使いやすい鉄道を目指していただきたいと願っています。

2024年9月24日 「ホーム転落をなくす会」一同

あなたの「ひと声」が 目の見えない人の命を救います

キケンな時は 呼びかけを！

白い杖の人とまっぴら！ あぶない！

とまっぴら！ あぶない！

困っていそうなときは なにかおてつだいしましょうか？

と声をかけて下さいね (前や杖をいきなりつかまさないようお願いします)

緊急時のみ 腕をつかんでもとめて！

© ホーム転落をなくす会 <https://stoptenraku.com/>

▲ 「ホーム転落をなくす会」による啓発ポスター

▶ 「ホーム転落をなくす会」ホームページ

